

住吉第一中 いづちゅう

進路説明会

説明会:
11月1日
懇親会:
11月15日
～15日(金)

卒業後の進路選択は、高校選びが目的ではなく、将来どのような人生を送るのか、そのためにはどうすればよいのか、そのためには今、何をしなければならないのかを考えることです。皆さん、どうなうなおとなになるのでしょうか。どんな職業についているのをじょうからいいかなければなりません。選ぶ作業をじょうからしていかなければなりません。そのために、何をしなければならないのか。何をするに適しているのか。その目標に向かって、3年生は一步踏み出します。高校や専門学校に進学する者、就職をする者など、これから進む道が違つてきます。3年生は、11月1日の金曜放課後に保護者の方々を対象とした進路説明会を行いました。私立高校の特色や公立高校の特色などを、浪速高校、今宮工科高校、市岡高校から担当の先生方をお招きをし、説明していただきました。また、進路担当から3年生が本年度の変更点等を中心に説明をさせていただきました。また、11月1日～15日の一週間、進路についての三者懇談も行いました。保護者の皆さん、ご協力ありがとうございました。



1年生 職業講話

11月21日(木)



11月21日(木)午後、各地で、教職員研修をはじめ、生徒への特別授業などをされている先生、井上鈴佳先生に来ていただき、LGBTに関する講演をしていただきました。性の多様性を知り、今後友だちなどからカミングアウトされたときの対応によっては、相手を傷つけることがあります。しかし、自分の生き方についても考え方の機会を作っていました。



R1
11. 29

中西利彦
発行者

2年生 2023年11月12日(木)予定

球技大会、バーボン、シンドボーン



11月21日(木)午後、各地で、教職員研修をはじめ、生徒への特別授業などをされている先生、井上鈴佳先生に来ていただき、LGBTに関する講演をしていただきました。性の多様性を知り、今後友だちなどからカミングアウトされたときの対応によっては、相手を傷つけることがあります。しかし、自分の生き方についても考え方の機会を作っていました。



2年生 性教育

11月21日(木)

発行者

学校協議会

10月30日(水)

10月30日(水)に、学校協議会が開かれました。①全国学力・学習状況調査の結果・分析②チャレンジテストの結果・分析③学校診断アンケートについて④運営に関する中間報告させていただき、意見交換をさせていただきました。学力向上と家庭教育の大切さや地域でできることなどの意見もいただき、今後も子どもたちの学力向上に取り組んでいただきたいとともに、協力をいただけるというご意見をいただきました。協議会の委員の皆さん、ありがとうございました。



芸術鑑賞

和太鼓演奏 7日(木)午後、全学年が体育館で芸術鑑賞を行いました



SNSの使い方

方とNいたで県査小11月17日(日)に発生した住吉区在住の小学6年生の少女が、行方不明になり、公開捜査が行われました。そして、23日(土)、栃木県まんによる迫力ある演奏を鑑賞したあと、代表の生徒による太鼓教室が行われました。



編集後記

卒業後の進路について、考える行事が多くありました。将来、好きなことで収入を得て、それで生活ができる仕事を望んでいる人が多いと思います。しかし、次のような話を聞きました。「趣味で始めて、そばを打つことが上達したら、お店を出したくなり、サラリーマンをやめておそば屋さんをすることになった。また、人よりもおいしいコーヒーを入れられるようになった。そこで、人にも飲んでもらいたくて、喫茶店を始めた。さらには、何かをデザインすることが好きで、デザイナーになった。好きなことをして、それを仕事とする事にあこがれている人は、一見うらやましい話に見えますね。しかし、おそば屋さんは毎日、同じ品質のおそばを打たなければなりません。暑い日も、寒い日も、長雨で湿気の多い日も乾燥した日も、一定の品質のおそばが作れなければ、プロではありません。コーヒーも同じ、デザインも同じ。どんな心境の時も体調の時も一定の水準が求められるのが仕事です。一定の水準に維持することができての、しごとです。

り、傷つけたりするモノであることを再認識していく必要があります。使う人の自覚と責任が整っていないなら、使わ

台風時の状況判断

読売新聞の11月13日の朝刊に次のような



記事が載っていました。「(略) 台風19号とその後の大風による死者は、12日現在、13都県で90人以上に上ります。また、2000人以上の人のが避難所で生活を強いられています。 ◇今回の台風からは課題が見えてきました。長野県の千曲川や福島、宮城両県を流れる阿武隈川など7県の71河川で堤防が壊れましたが、被災の恐れのある場所や逃げるルートなどを示した地図「ハザードマップ」があっても、多くの人が逃げ遅れた地域があったのです。 ◇長野県の千曲川の堤防から約2%の地区に住む夫婦は、堤防が壊れる前日夜、「雨は強くない。大したことはないだろう」とそのまま寝ました。翌日午前3時頃、避難指示の発令を知った時も「床下浸水くらいだろう」と思いました。しかし、約1時間後、家に水が流れ込み、1階の天井近くまで達しました。 ◇千曲川は過去に何度も氾濫しています。今回、水につかった地域は市のハザードマップとも重なっていました。夫婦は「ハザードマップは普段から見ていたが、水害にあったことはなく、『大したことない』と判断してしまった」としています。 ◇気象庁は5月下旬から大雨の時に住民が取るべき行動に合わせ、警報や注意報といった情報の危険度のレベルを5段階に分けて発表する運用も始めたが、自治体や住民の情報への感度の高さも求められています。(略) ◇命を守るためにには日頃の備えが重要です。専門家は「住民自らが『どの程度浸水する可能性があるか』などの情報を事前に知っておき、状況を的確に判断し、避難することが必要だ」と話しています。 ◇台風や大雨の危険が迫っているとき、どんな行動を取るべきか。 ◇避難所生活にはどんな苦労があるのだろうか。 ◇自然災害から身を守るために、日頃からできることは何か。」

以上の記事から、のど元過ぎれば熱さを忘れると言うことのないように、過ぎ去ったからこそ、今思い起こして、次に備える必要があると思います。